



上手な運転のしかた



上手な運転とは、何よりもまず安全に車を運転することです。決して高度の技術を要する運転を言うものではありません。

車の性能を十分に認識し、法令にしたがって秩序よく、最も有効的に車をお使いいただくことです。それが結局は車を長持ちさせ、事故防止にも役立

ちます。

安全運転のために、次の各項目はかならず守ってください。



スタートの前に

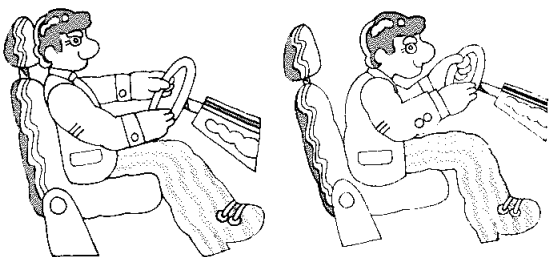
①ドライビング・ポジション

正しいドライビング・ポジションとは急カーブや振動で身体がふらつかず両手・両足を敏速にかつ正確に動かせる姿勢です。

また前後の視界が十分に確保でき長距離運転にも疲れな姿勢であることが大切です。

良

悪



②服装

ハンドルやペダル操作をさまたげない服装、はきもので運転をしましょう。

ブレーキ、クラッチの 使いかた

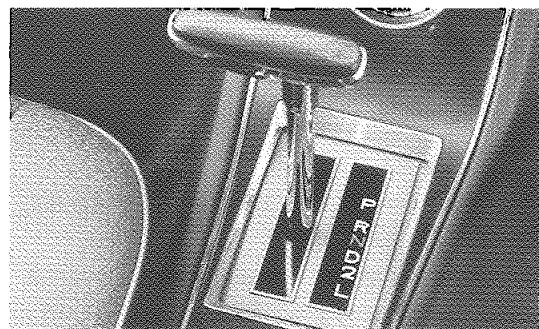
■ブレーキ

ブレーキ・ペダルは、2・3度に踏みわけるとより安定した効きを示します。また、早目に後続車に知らせることもなります。ブレーキは常にエンジン・ブレーキと併用して使いましょう。長い下り坂では、ブレーキを踏み続けるのはやめ、エンジン・ブレーキを活用しましょう。

■クラッチ

ギヤ・シフトはクラッチを十分に踏んでから行ないましょう。走行中、クラッチ・ペダルに足を乗せないようにしましょう。クラッチの不具合の原因になります。

トヨタグライド オートマチックの運転 のしかた



〈トヨタグライド・オートマチックの場合〉

■発進、走行

急坂路を下るときはスピードに応じて①または②に入れエンジン・ブレーキをかけます。

①から発進し②、①へとマニュアル・トランスミッション車と同様に手で操作しても運転できます。

■一旦停止

①に入れたまま、ブレーキをかけます。

■急加速

追い越しなどで、急加速をしたいときはアクセルをいっぱい踏むと①から自動的に②または①になります。(キック・ダウン操作)

■後退

車が完全に止まってから③に入れます。

■駐車

車が完全に止まってから④に入れます。

エンジンを長持ちさせる ために

- 定期点検整備は定められた通りおこないましょう。
- 走行距離の少ないうち(5,000kmぐらいまでは)、できる限り無理な運転は避けましょう。
- エンジンをオーバーランさせないために、各ギヤの速度は次表を越えないように運転してください。

車種	S L 車 G S L 車	SL・GSL トルコン車	G S S 車
1 速	50km/h	70km/h	55km/h
2 速	85km/h	115km/h	85km/h
3 速	125km/h	/	125km/h
4 速	/	/	165km/h

車種	L 車		
	4段ミッション	トルコン	5段ミッション
1 速	45km/h	65km/h	50km/h
2 速	80km/h	105km/h	80km/h
3 速	115km/h	/	115km/h
4 速	/	/	165km/h

経済的な運転

- エンジンが冷えていると熱効率を悪くしますから十分ウォーミング・アップをしましょう。
- エンジン回転数と車速をマッチさせた、ギヤ、シフトをしましょう。
- 急停車、急発進はできるだけ避けましょう。
- 走行中の半クラッチは避けましょう。
- 不必要にスピードの上げ下げをしないようにしましょう。
- 不必要な高速運転はやめましょう。
- エンジン性能にあったガソリンを入れましょう。

悪路走行

- スピードをおとしましょう。
- ぬかるみ・砂地・ジャリ道では、変速・急ハンドルは極力しないようにしましょう。
- 凸凹道避けられないときは片輪だけを凸凹部にのせるようにして走行しましょう。
- 悪路走行後は、走行装置の点検をしましょう。

悪天候時の運転

〈霧の日の運転〉

- スモール・ランプまたは、ロー・ビームを点灯して走行しましょう。
- 先行車のある場合はその車のテール・ランプを目印に走行しましょう。

〈雪路・凍結路運転〉

- 道路の状況に応じてスノー・タイヤやタイヤ・チェーンなどを装着して走行しましょう。
- 路面がすべりやすいのでスピードの出しすぎや急加速・急ブレーキ・急ハンドルは非常に危険です。

坂路走行

- 登り坂ではノッキングさせないように早めにギヤシフトをしましょう。
- 下り坂ではエンジン・ブレーキを活用しましょう。
- カーブでは手前で十分減速しましょう。

高速道路での運転

〈基礎知識〉

普通走行では影響のないような不調でも、高速走行では大きな故障や事故の直接の原因となることがありますので、次のことを心掛けてください。

- 仕業点検は完全におこなうこと。
- 急ハンドルはしないこと。
- 車間距離は十分保つこと。
- 路面がぬれている場合はタイヤが滑りやすいのでスピードを落とすこと。
- 風の強いときはスピードを落とすこと。

〈本線への進入〉

- ターン・シグナルを早目に出します。
- 加速車線で十分加速し後方確認を十分してはいります。

〈本線では〉

- カーブは絶対指示速度以下で
- 急勾配・急カーブではスピードのコントロールを十分に
- 追い越しをするときは、車の流れを確認して
- 車線変更合図は確実に
- トンネル内は必ずヘッド・ランプを点灯
- 高速道路の歩行は緊急以外は禁止
- 進入車には走行車線をゆずって
- 悪天候時はスピードをひかえめに

〈本線からでるときは〉

- 出口を確かめ、ターン・シグナルを出す、出口を行きすぎても、もどることはできません。

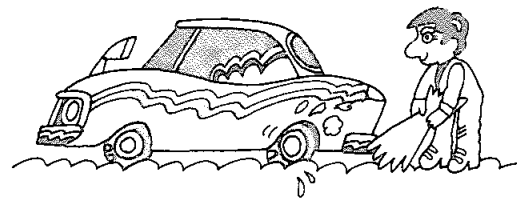
- ランプ・ウェイでは速度感覚が違ってきますからスピード・メーターを見て指示速度に減速しましょう。

〈高速道路で、故障と事故が起きた場合は〉

- ハザード・ウォーニング・ランプを点滅させたりエマー・フラッグ(赤旗)で後続車に緊急を知らせます。
- 故障・ガス欠・事故は非常電話で通報してください。
- 電話のない所では、巡回サービスカーがくるまで待っていてください。
- けん引は勝手にしないこと。
高速道路ではたとえ友人の車がいても勝手にけん引することは禁じられています。
- トンネル内では、たとえ簡単な修理でも車外作業は行なってはいけません。

緊急処置

- ぬかるみ、砂地に車が落ちたとき
むやみにアクセルをふかして車輪を空転させないでください。

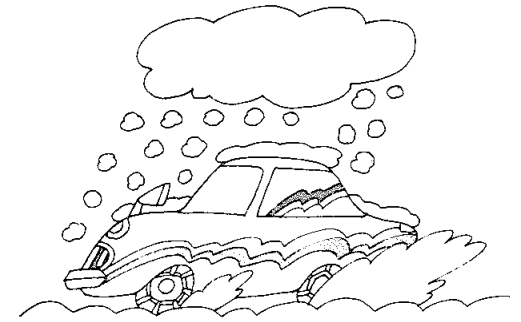


ジャッキ・アップしてタイヤの下に草、わら、石ころを置いて車を前後にゆさぶり反動で、脱出しましょう。

また、タイヤの空気を抜いて路面との接地力をよくすると抜け出しやすくなります。そのあとで、すぐ空気を入れることを忘れないように。

■ 雪路、凍結路で車が横すべりを始めたとき

急ブレーキを踏むと横すべりがひどくなります。横すべりを始めた方向へハンドルをきって進路をたて直しましょう。

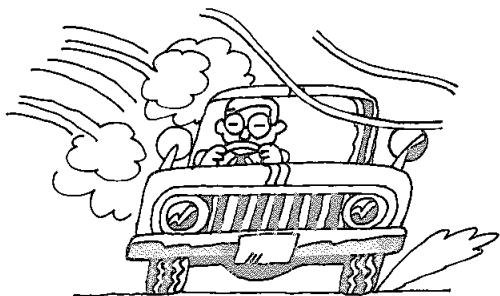


■ 高速走行中、パンク・バースト

(タイヤの空気が急に抜ける)したとき

ハンドルをしっかりとって急ブレーキを踏まないようにしましょう。
急ブレーキを踏むとハンドルを強くとられ、車が転ぶくることがあります。

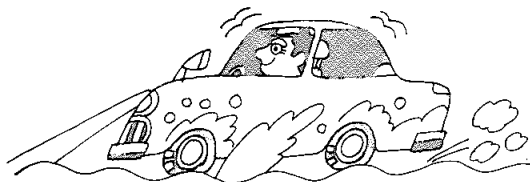
■**高速走行中、横風をうけたとき**
急ブレーキは踏まないようにしましょう。



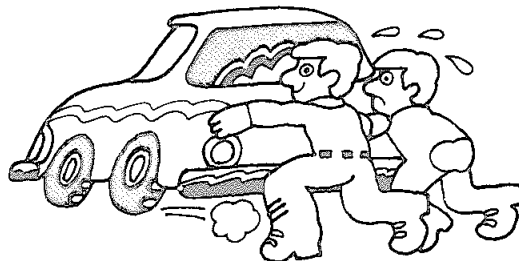
アクセルから足を離し、進路をたてなおしましょう。

■**降雨時、水たまり走行後ブレーキが効かなくなったとき**

しばらく低速でアクセルとブレーキを交互に踏みながら走行し、ブレーキ内に入った水を早く乾燥させます。



■**エンストして始動が容易にできないとき**
付近に人のいる場合は安全な場所まで押してもらってください。



踏切りなどで急を要し、付近にも人がいない場合は、スターターで動かすことができます。その要領はギヤをトップへ入れ、スターターをまわします。

このとき、クラッチから足を離しておきます。

■**ガソリンを吸いこみすぎのとき**

しばらく時間をおいてかけ直します。あるいは、アクセル・ペダルをいっぱい踏みこんだままスターターを5秒間くらいまわす操作を2～3回繰り返します。このとき、アクセル・ペダルは踏み直さないでください。

■**バッテリーが放電したとき**

マニュアル・トランスミッション車

エンジン・スイッチをONにしてギヤをセカンドまたはサードに入れクラッチを踏んだ状態で車を押すか、けん引してもらいます。

スピードが10km/hくらいになったとき、クラッチから足を離します。エンジンがかかったらすぐクラッチを踏み、ギヤをニュートラルにします。

トヨグライド・オートマチック車

エンジン・スイッチをONにしてコントロール・レバーをNに入れ、車をけん引してもらいます。スピードが30km/hくらいになったとき、レバーをDに入れます。エンジンがかかったら、レバーをNに入れます。

■**スパーク・プラグ使用上のご注意**

GSS車のプラグは低熱価の市街地用のものを取りつけてありますので、準レース走行(140km/h以上の連続走行)をされる時には必ず高熱価のプラグとお取りかえください。

低熱価のプラグで準レース走行をされますと、プラグが焼損したり、ピストンが破損する場合がありますので、十分ご注意ください。

	高熱価プラグ	低熱価プラグ
プラグの種類	日本電装製 W22EP	日本電装製 W20EP
	NGK製 BP-7E	NGK製 BP-6ES
走行条件	準レース走行	一般走行

以上の処置でなおらない場合、異音、異臭のする場合はサービス工場で点検を受けましょう。

